

クロスアポイントメント教員に聞く!

—2大学で教えることになったきっかけは?

私は2012年から福島大学に所属しています。交通政策・交通計画が専門で、2019年頃から前橋市の交通政策にも関わってきました。その縁があって、前橋市から「市の都市政策と教育にも携わってほしい」と声がかかり、前橋工科大学でも教員として働くようになりました。交通政策は文理両方の側面からアプローチできる分野です。福島大学では経済経営学類の学生に教えていますが、前橋工科大学は工学系だけの単科大学。昨今、文系の学生にもまちづくりのコンサルタント志望者が始まっており、それには経済の視点だけではなく、工学系の視点も求められるため、特性が異なる学生同士の交流の機会をつくりたいという考えもあり、オファーを受けました。

—それぞれの大学での業務とエフォートは?

本務校である福島大学が6、前橋工科大学が4という業務割合です。福島大学は水・木・金曜勤務で、授業のコマ数、学内の業務分担は前年度と変わらず、学類のアドミッションオフィサーも務めています。ただ、即時対応しなければならない細かな業務や、月・火曜に発生する業務からは担当を外してもらっています。前橋工科大学での主な任務は、群馬県と前橋市の交通政策の高度化です。月・火は前橋に赴き、県や市の関係者、民間のベンダーが参加する会議に参加するほか、都市計画や交通を専門とする研究室に参加し、学生、大学院生の指導補助を行っています。

クロスアポイントメントによる2大学での業務概要

業務	福島大学 経済経営学類	前橋工科大学
エフォート	6(週3勤務)*本務校(業務量は変更なし)	4(週2勤務)
教育・研究	基盤教育科目2コマ、専門科目3コマ、卒論指導、院生指導	前橋市の地域交通の再構築と高度化の推進の研究業務。
運営業務	所属学類のアドミッションオフィサー	なし
給与・社会保険料・手当等	4割分は前橋工科大が福島大に納め、福島大より一括支給。福島大にはクロスアポイントメント手当あり。交通費は各大学より支給。	
評価	あり	なし

教員自身にとってのメリットも大教育・研究の幅が広がり、

福島大学
経済経営学類准教授/
前橋工科大学
学術研究院特任准教授

吉田 樹



—給与や社会保険料などの扱いは?

給与や手当、社会保険料は福島大学からまとめて支払われます。このうち4割分を前橋工科大学が福島大学に負担金を支払う形です。教員評価は福島大学のルールに基づいて評価されます。なお、福島大学にはクロスアポイントメント手当制度があり、条件が整えば手当として加算される場合もあります。

—複数の大学で働く自身のメリットは?

教育・研究の可能性が広がりました。教育面では、合同ゼミ発表会を実施したところ、双方の学生にとって刺激になったようです。研究面については、福島大学では院に進む者が少ないため、研究論文は単著が多くなりますが、院生が多い前橋工科大学に関わることで、彼らと協力しながら研究を進められ、幅が広がりました。交通政策は課題が多く、理系・文系双方の視点で産学官連携にて取り組むべき分野です。しかし、研究者は少ないため、今後、クロスアポイントメント制度による兼任が求められる分野かもしれません。課題は、福島大学の学生へのケアです。直接会う機会が減るので、不在中はオンラインツールを活用して、対応しています。

—大学や他教員へのアドバイスを

私の場合、前橋工科大学に同じ学会の教員がいて、職員の手助けもあり、比較的溶け込みやすかったものの、受け入れ側の大学には他機関から来た教員が孤立しない体制が求められると思います。また、他大学で教育・研究をする時間が増えれば、本務校の他の教員の負担が増える可能性があり、本務校の大学側の理解も必要になります。教員自身も同僚に快く協力してもらえるよう、心遣いや感謝を示すことが大切です。